

科目名 (英)	はりきゆう理論 Scientific Theory of Acupuncture and Moxibustion	必修 選択	必修	年次	2年次	担当教員	
学科・コース	鍼灸科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分	後期
<p>【授業の学習内容】(※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する) 安全かつ効果的に鍼灸施術を行う上で鍼灸刺激が生体にどのような影響を与え、どのような効果を引き出すのか理解する必要がある。 本科目では1年次から2年次前半に学習した生理学の知識を基に鍼灸の物理的刺激が生体機能にどのような変化を与えるかを学習する。 また、鍼灸の科学的研究や基礎医学的知識を通して鍼灸治効のメカニズムを学習する。</p>							
<p>【到達目標】 鍼灸刺激の治効の基礎として鍼灸刺激の受容と伝導について説明することができる。 はり鎮痛の作用機序について説明できる。 生体機能(内臓、内分泌系など)、運動器系に及ぼす影響および作用機序について説明することができる。 現在までの鍼灸治効に関する研究や諸学説を基に臨床に応用できる知識を身につける。</p>							

授業計画・内容	
1回目	痛覚刺激の種類、痛覚受容器の種類と特徴、痛覚の発生、痛覚の伝導路について説明が出来る。
2回目	関連痛、投射痛、痛みの悪循環について説明できる。
3回目	温度刺激の種類、温度受容器の種類と特徴、温覚の伝導路について説明できる。
4回目	触圧刺激の種類、機能、応答性、触圧覚の伝導路について説明できる。
5回目	筋の伸張刺激および筋の振動の受容と伝導、鍼灸刺激と反射について説明できる
6回目	鍼鎮痛経路について説明できる
7回目	鍼鎮痛発現メカニズムと適応について説明できる
8回目	刺激による生体反応について説明できる
9回目	自律神経系及ぼす鍼灸刺激の影響について説明できる
10回目	自律神経系及ぼす鍼灸刺激の影響について説明できる
11回目	生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響について説明できる
12回目	生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響について説明できる
13回目	鍼灸治効のメカニズムに関する各種学説について説明できる
14回目	鍼灸治効のメカニズムに関する各種学説について説明できる
15回目	鍼灸治効のメカニズムに関する各種学説について説明できる
準備学習 時間外学 習	生体機能の基礎を理解しておくことが前提となる授業です。生理学Ⅰ・Ⅱにおいて学習した内容を予習しておくこと。 授業ごとに実施される小テストの内容を再確認し、不明な点があれば教科書、参考図書の項目を熟読すること。 不明な点が解決できない場合は担当教員に質問すること。
評価方法	成績の評価は、各科目の『試験』の点数で100点満点とする。 『試験』には科目試験や中間試験、小テスト等の臨時試験などが含まれる。
受講生へ のメッセー ジ	
<p>【使用教科書・教材・参考書】 教科書 はりきゆう理論 医道の日本社 出版 参考書 図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ 文光堂 出版</p>	